

## 2020 年度研究助成 研究実績報告書

代表研究者	矢澤彩香
研究テーマ	災害時における外国人に対する食支援に関する研究

### <助成研究の要旨>

#### 【目的】

近年、インドネシアやマレーシアなどからのムスリム旅行者は増加している。現在は、新型コロナウイルス感染症対策により旅行者も減少しているが、感染症が収束し、インバウンド再開となれば再び旅行者が増えることが予測されている。ムスリム旅行者の多くが訪日旅行で困ったこととしてあげるのが食事である。観光庁は飲食店や宿泊施設等への周知に取り組んでいるが、ムスリム旅行者の目線で旅行先国を評価した指標 Global Muslim Travel Index では日本は治安面等の評価は高いものの、食事対応、礼拝スペースの充実などの項目での評価は低い状況にある。また、ムスリムの宗教上の習慣には個人差があり、一様の対応で済まないと言われている。一方、昨今、日本での災害は増加傾向にある。もし日本で災害が発生した場合には、外国人旅行者も避難所へ避難してくる可能性が高い。そこで本研究では、外国人の中でも食の面で配慮が必要になると考えられるムスリムに注目し、今後、来日の可能性がある海外在住のムスリムの災害に対する知識の状況、災害時における食への考え方、ムスリムではない日本人の外国人受け入れに対する考え方などを調査し、災害時食支援のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的とした。

#### 【方法】

海外在住ムスリム(インドネシアまたはマレーシア在住)を対象に、災害についての知識の状況、災害時における食への考え方(希望するハラル対応のレベル)などについてアンケート調査を行った。また、大都市圏在住のムスリムではない日本人を対象に、避難所での外国人受け入れに対する考え方などについてアンケート調査を実施した。

#### 【結果・考察】

海外在住ムスリムへのアンケートの結果、災害について何らかの知識があると回答した者は、7 割を超えていた。また、9 割以上の者が日本への旅行が決まったら、渡航前に日本で災害に遭遇した場合どうするかについて、自ら情報を収集する予定であると回答した。災害時における食への考え方には、災害時であっても許容できない者、災害時など生命の危険が伴う場合には仕方がないと考える者など、個人差がみられた。一方、ムスリムではない日本人側からは、避難所での外国人受け入れに関して日本語がわからない場合や文化の違いからトラブルが発生しそうと感じる、受け入れ体制が整っていない可能性が高く混乱しそう、などの意見があった。また、ムスリムに接したことがある人は極めて少ない状況であった。本研究の結果はすべてのムスリム旅行者、地域住民にあてはめることはできないが、得られた結果を参考にして、今後の避難所での外国人の食支援のあり方について検討していく予定である。